

「食」のプロジェクト

「見山の郷提携事業」2016年度の活動報告

所員 村上喜郁

(経営学部准教授)

はじめに 見山の郷提携事業の概要

北摂総合研究所「食」のプロジェクトの1つである見山の郷提携事業は、2013年に追手門学院大学 地域文化創造機構「見山の郷商品開発プロジェクト（略称：MSP）」として開始されている。当初からの本事業の目的は、追手門学院大学が農事組合法人 見山の郷 交流施設組合（以下、「見山の郷」と表記）と連携し、大学生の若いアイデアと行動力で、地域の新しい商品を開発しようという地域連携であり、課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）である。

2013年度は、学生による見山の郷とその周辺地域でのフィールドワーク、研究発表（2014年3月12日 於：はなやか関西「関西の食文化」シンポジウム）を実施した。ここで明らかとなったのは、「見山の郷への訪問客の高齢化・固定化」の問題である。この問題意識のもと、2014年夏には見山の郷の特産品である「赤しそ」と「米粉（こめこ）」を活用した若者・家族向け商品である「おうてもん赤しそ塩あんぱん」を開発している（現在、見山の郷で通常販売）。2015年4月23日には、追手門学院と見山の郷の間で、相互の更なる充実・発展に資することを目的として、正式に覚書が締結された。その後は、この覚書に基づいて「平成27年度茨木市産学連携スタートアップ支援事業」に「若者向け地元産やさいを使った「やさいジュレ」の開発」を応募し、採択されている。そして、この成果としてジュレ（ゼリー：商品名「見山ジュレ（赤しそ・ゆず）」）を開発し、販売までこぎつけた。この内容については、2015年10月18日（日）、大学コンソーシアム大阪主催で開催された「地域連携学生フォーラム2015 in 大阪」にて学生発表ならびに報告書作成をおこなっている。



おうてもん赤しそ塩あんぱん



見山ジュレ

加えて、2016年3月に『人としくみの農業 地域をひとから人へ手渡す六次産業化』第3章「地域の大学が六次産業に果たす役割」（追手門学院大学出版会）として、担当教員である村上喜郁が研究をまとめている。

2016年度事業については、(1)「見山ジュレ」の販売促進活動、(2)見山の郷に関する学生による研究発表を中心に活動をおこなった。加えて、これら活動について、北摂総合研究所「食」のプロジェクトとして、学生メンバーが「2016年度 追手門学院大学 学生表彰 優秀賞」を受賞したことを申し添える。



学生製作の見山の郷ポスター発表

(1) 「見山ジュレ」の販売促進活動

2015年度、見山の郷商品開発プロジェクトは、先述の通り「平成27年度茨木市産学連携スタートアップ支援事業」に「若者向け地元産やさいを使った「やさいジュレ」の開発」にて応募・採択され、「見山ジュレ」¹⁾の開発までをおこなった。2016年度は、この「見山ジュレ」の販売促進を主たる目的と設定し、課題解決型学習をおこなっている。そして、具体的課題として、参加学生から「販路開発」と「商品PR」が挙げられた。

まず、4月には新規の参加学生メンバーを募り、11名が加入した。そして、新規メンバー対象の「見山の郷見学会」を開催し、同時に在来メンバーによる「見山ジュレ」の販売促進の案についてのプレゼンテーションが、見山の郷に向けおこなわれた。この案に基づいて、2016年度の販売促進イベント、販売促進用衣装とPOPの作成が計画された。

見山ジュレのおひろめについては、イベント開催の打診があったイオンモール茨木にて、2016年9月15日(木)に「見山ジュレ 新発売キャンペーン」として実施した。イオンモール茨木1階 生鮮売り場前に特設会場を設け、「見山ジュレ (赤しそ・ゆず)」の試食を軸としておこなった。また、これに先んじて、学生メンバー用のピンク(しそ色)の販売促進用衣装を学生がデザインし、製作している。

次に、2016年10月1日(土)、見山の郷交流施設組合にて開催された「見山の郷 収穫祭」にて、「見山ジュレ」の試食販売を実施した。続く、2016年11月5日(土)、6日(日)には、追手門学院大学「將軍山祭」にブースを出展し、同様に試食販売会をおこなった。また、6日(日)の追手門学院大学 校友会 ホームcomingデーの経営学部ブースでも、活動プレゼンテーションならびにお土産配布をおこなっている。

これらの活動もあり、2016年度の生産分のジュレについて、順調な売れ行きを見せている旨、見山の郷より報告を受けている。

(2) 見山の郷に関する学生による研究発表

見山の郷に関する学生による研究発表としては、追手門学院大学オープンキャンパスでのポスター発表、「大阪中学生サマー・セミナー」での学生による講義、茨木市の「学生リサーチプログラム」への参加が主な活動となった。

2016年8月5日(金)、6日(土)、追手門学院大学 オープンキャンパス経営学部ブースにて、来校の高校生とその保護者に向けて、MSPの活動報告についてのポスター発表をおこなった。また、大学コンソーシアム大阪が主催する「大阪中学生サマー・セミナー 見て、食べて、学ぶ流通システム」では、受講の中学生に向け六次産業に関する講義をおこなっている。最後に、2017年12月からは、茨木市 都市整備部 北部整備推進課の「学生リサーチプログラム」に参加し、見山の郷を中心とした「いばきた(茨木市北部地域)」の魅力を発信・発信する活動をおこなっている(2017年2月25日(土)に成果報告会に参加)。



見山ジュレ 新発売キャンペーンの様子



オープンキャンパス・ポスター発表の様子

(3) その他

その他事項として、メディアへの露出を特記する。

【露出メディア一覧】

2016. 10. 29 「高槻・茨城産新米の季節がやってきた」『サンケイリビング北摂東』

2016. 05. 26 「話題の本：人としくみの農業」『日刊工業新聞』

2016. 05. 25 「追手門学院大学 完成間近！見山マダム期待のご当地野菜ジュレ。」『関西の大学を楽しむ本』

2016. 06. 01 「茨木・見山地区の魅力の商品化せよ！追手門学院大学が野菜ジュレを開発」『ほとんど0円大学』

おわりに 2016年度の見山の郷提携事業のまとめ

まず、本年度の見山の郷提携事業について、茨木市「学生リサーチプログラム」など報告書作成時点で継続の活動はあるものの、全体として大過無く完了できることを喜ぶたい。本年度は、昨年度の茨木市産学連携スタートアップ支援事業採択を受けて完成した「見山ジュレ」が実際に販売開始されたことで、販売促進活動を課題とした課題解決型学習が中心の一年となった。この点では、夏に生産したジュレが、期末を待たず完売に近い状態となったことは、大きな成果であろう。

一方、PBL 運営としての面では、参加学生の公募期間の短さもあり、今年度の新規加入者は村上喜郁ゼミの新年度生が中心となったことは、反省事項である。この点は、参加学生公募期間の調整とより適切な告知方法を既存の参加学生とともに考え実行したい。

最後に、本提携事業にご協力いただいた見山の郷の皆様、追手門学院大学の教職員の皆様、ならびにご協力いただいた皆様に、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

補記

本事業は、追手門学院大学 特色ある研究奨励費制度（2015年度～2016年度）に採択された「「食」をフィールドとした社会科学系 PBL の可能性に関する研究」における事例研究の対象としたことを申し添える。

注

- 1) 「見山ジュレ」について、2015年度に赤しそ味（果肉：ぶどう）・ゆず味を試作した。2016年度の製品版では、赤しそ味の果肉は、生産時期等を考慮して「あまっこ（ミニトマト）」に変更した。